京都外国語大学校友会教志会
平成 30 年度英語教育実践報告研究会　報告書



日時　：　2018 年(平成 30 年)11 月 23 日（祝金）
13 時―17 時 20 分
場所　：　京都外国語大学 1 号館　7 階　171 教室
参加者　：　41 人

１）開会挨拶
教志会　会長 左近　正則

２）講演
講師　京都外国語大学外国語学部英米語学科　教授
相川　真佐夫先生
演題　「海外短期研修 について　―その効果を考える―」



短期研修に関する様々な研究報告を紹介頂いた。変数が多すぎて解明されていないことが多いとされながらも、「異国の人と接して、交流すること、摩擦を体験すること、その中のコミュニティで生きていくことが大切。京都外国語大学は『〇〇言語を操ることができるプロ』以上に、『異文化理解のプロ』となる学生の排出を目指さねばならない。」と訴えられた。

３）実践報告　３名
①名古屋経済大学高蔵高等学校　　乗松　孝俊　先生



「できた！が実感できる英語指導実践」
授業冒頭の帯活動で単語テストを行われており、解答数のレベルを徐々に上げいくことで生徒の達成感を高めていく取り組みを紹介された。

②兵庫県立香住高等学校　　安藤　洋之　先生



「青年海外協力隊に参加して」
ケニアの全寮制の男子更生施設で、更生プログラムの改善・充実に努められたことなど、現地での活動の様子、異文化交流の難しさとそこから得られた実践を詳しく紹介された。

③京都府総合教育センター　大槻　裕代　先生



「主体性、発信力を重視した英語教育の実践
―国際教育・キャリア教育の視点から―」
東舞鶴高校で、引揚記念館のユネスコ世界記憶遺産への登録を目指し、生徒がアメリカ研修で署名活動を行ったことや、シベリア抑留体験者へのインタビューを行ったこと、それに共感した小学校と交流を持ったことなど生徒が主体的に取り組む姿を紹介された。

４）グループ別交流会
参加者が４つの班に別れ、日頃の実践など情報交換を行った。



５）閉会